Building networks among info pros

つなぐ情報プロ

第19回

佐々木 文彦 (富士フィルム知財情報リサーチ株式会社 調査分析ユニット)

情報管理. 2015, vol. 58, no. 1, p. 53-56. doi: <http://dx.doi.org/10.1241/johokanri.58.53>

特許分科会とは

商用オンラインデータベースの発展に伴い、サーチャー同士の相互研究のため1979年に日本オンライン情報検索ユーザー会 (Online User Group, 以下, OUG) が発足した¹⁾。OUGはその後、(一社) 情報科学技術協会へ吸収・再編を経て、現在は化学分科会、インターネット／ビジネス分科会、特許分科会、ライフサイエンス分科会の計4分科会が活動している。

特許分科会 (以下、本会) は、特許調査を取り扱う情報検索者 (以下、サーチャー) の知識・技術研鑽を主たる目的に実務的な活動を行う研究会である。参加者の所属は、企業・企業調査会社の知財関係者、調査会社、特許事務所の情報調査部門や知財部等、業種もさまざまである。また、例会もすでに370回を超え30年以上も活動を続けている。さらに2002年に情報科学技術協会より発行された「ひとり

でできる特許調査―特許の仕組みと情報検索虎の巻」(絶版) は、本会が企画・執筆に携わったことなど月例会を超えた活動も行っている^{2), 3)}。

本会の方針

本会は、ギブ・アンド・テイクをモットーとし、自分たちの知りたいことを参加者間で情報交換することを主たる目的にしている。本会は、約十数年前より主査を含む幹事10名程度の幹事会により運営しており、各幹事は、年間1つ以上、自分の関心事をテーマに月例会を主催している。また、遠方の会員にも考慮し、現在はグループウェア (図1) を使い会員間の情報交換を行っている。

活動内容

本会は、8月を除き毎月第2金曜日の14時から17時

図1 OUG特許分科会のグループウェア掲示板

に東京で開催している。活動は、主に検索演習、講演会と実習等である。

検索演習は、先行技術文献調査、無効化資料調査、侵害予防調査など一般的な特許調査に加え特許分析なども行っている。課題は、2～3時間程度で行えることを念頭に作成している。業種がさまざまなので誰もがわかるテーマを選定することが一苦労である。最近では、特許庁の調査結果をもとに、検索式の批評演習を含めた無効化資料調査が多くなっている。そのほか、実際に売られている商品を特許的に解析し侵害予防調査をすることや新聞記事から特許技術情報を調査することなども行っている。

講演会は、会員の関心事（たとえば、東南アジアの特許調査、無料特許調査DB、新規の特許調査DBなど）に関して、その分野の第一人者やベンダーを招き講演していただいている。最近では、元大阪工業大学の都築泉氏、アスタミューゼ（株）の永井歩氏、日本技術貿易（株）の中根寿浩氏、また過去には検索競技大会上位者や、特許庁審査官にも講演をしていただいた。

実習は、新人教育に関して、CPC（Cooperative Patent Classification；共同特許分類）の対応について、報告書の書き方や検索キーワードの上手な選択など、会員が講師となり議論を通じ理解を深めることを行った。

表1は、この1年の月例会の活動内容である。各回の詳細や過去の内容は、情報科学技術協会のWebサイトに議事録が掲載されているので、ぜひご覧いただきたい²⁾。

表1にも記載したが、年1回（2014年度は10月）に関東近県にて合宿を行っている。合宿は、通常の金曜日午後＋土曜日午前中の1泊2日で検索演習を中心に直接テーマに関係のない身近な疑問、普段の例会では時間切れになってしまう話題などについて、じっくり議論を行っている。ちなみに日帰りも可能である（図2）。

参加のきっかけ

調査を始めて10年近く経ち、気がつけば社内サーチャーでは経験年数が一番長く、常に教える立場となった。そこでこれからの自己成長には外部へ学びに行く必要があると考えたことが私が本会に参加したきっかけだった。2009年より情報収集と自己研鑽のためにOUGへ参加し、当時あまり得意でなかった特許調査の勉強に取り組み始めた。

当時の業務は、化学系かつ侵害予防調査が中心であったため、CAS（Chemical Abstracts Service）系やDWPI（Derwent World Patents Index）での調査が主であり国内の特許調査はしてこなかった。そのため、参加当初の検索演習では、無効化資料調査など

表1 2014年の例会開催内容一覧

会期	回数	テーマ	内容
2014年3月	366	実習	言葉を用いた検索式の作り方
2014年4月	367	検索演習	検索批評演習（無効化資料調査）
2014年5月	368	講演会	元大阪工業大学 准教授 都築 泉先生講演会
2014年6月	369	実習	報告書作成について、再考しよう
2014年7月	370	検索演習	検索批評演習（無効化資料調査）
2014年9月	371	講演会	日本技術貿易株式会社 中根氏「ASEAN 最新知財状況」
2014年10月	372	検索演習	検索批評演習（1泊2日の合宿）
2014年11月	373	検索演習	検索競技大会の問題を解いてみよう 機械編
2014年12月	374	講演会	アスタミューゼ株式会社 永井氏「『異分野成長市場』『有望ベンチャー企業』をフックにした特許検索」
2015年1月	375	実習	検索式のチェックポイント
2015年2月	376	検索演習	検索批評演習（無効化資料調査）

図2 2015年2月例会 出席者の集合写真

の自分で特許性を考慮して検索式を立てることがあまりできず、ほかの皆さんの回答を見て大いに感心していたことを今でも覚えている。その後、2011年より幹事の末席に加えていただき、2013年に副主査、2014年に主査を務めるに至った。

活動から得たものと今後の活動

本会へ参加し得たものは、サーチャーとしても社会人としても人間としても非常に多いのだが、その中でも特に大きな4つに関して記載する。

第1は社外の人脈が広がったことである。それまで仕事関係で話をする機会が多かったのはベンダーの方が主流だったが、知財関係者、調査会社や競合会社も含めた企業のサーチャーなど幅広い方と知り合いになれた。業界の裏話、現在の関心事や課題など同じ仕事をしているからこそわかる、共通した話題を相談し合える仲間ができた。

第2に、特許調査の極意が学べたこと、すなわち何をどう調べるのか、すなわちどこにゴールを置いて調べるのか、そのためには何をすればよいのか、何に注意をすればよいのか、会員の皆さんの発言が非常に勉強になった。井の中の蛙大海を知らずとはよく言ったもので、社内だけではなかなか気づかないことが学べた。これらは、多くの諸先輩方はもちろんだが、最近調査を始めた方の話にもいろいろな気

づきがあり非常に勉強になる。私事であるが、本会で得られた知識をもとに社内教育を行い、部下とともに検索競技大会2014でゴールド認定をいただくことができた。

第3は、合宿や例会後の雑談が非常に有意義なことである。合宿時は、特に昼の部に加え夜の部（懇親会）では、サーチャーの未来、調査の裏話、会社の愚痴など同じ仕事ならではのさまざまな話題の対話時間が非常に役立つ。

第4は、幹事になって課題の問題を作成することで、調査にはどんなことに注意していくのかが勉強になったこと、さらに社内の教育に非常に役に立ったことである。こんなことに気づいて欲しいということや、間違いやすい分類の使い方などを含め、単なる演習ではなく、目的のある問題を考えるためそのまま社内教育に生かすことができた。

今後は、自己研鑽に加え、諸先輩方がわれわれに与えてくれたものを新たな会員と共有することで会全体のレベルアップを図っていきたい。現在、出席者が減少傾向にあるので、興味をもっていただけたら、ぜひ一度見学にいらしていただきたい。また、幹事を引き受けるのも諸所の面で大変だが得るものも大きいので、ぜひ立候補していただければ幸いである。

佐々木 文彦 (ささき ふみひこ)

情報科学技術協会OUG特許分科会主査。富士フイルム(株)入社後、研究所勤務を経て、調査関連部署へ異動。2010年より富士フイルム知財情報リサーチ(株)の設立に伴い出向、その後移籍し現在に至る。検索競技大会2014アドバンストコースでゴールド認定。

参考文献

- 1) 情報科学技術協会. “協会のあゆみ”. 一般社団法人情報科学技術協会. <http://www.infosta.or.jp/history/>, (accessed 2015-2-25).
- 2) OUG特許分科会. “OUG特許分科会のご案内”. 一般社団法人OUG特許分科会. <http://www.infosta.or.jp/pat/index.htm>, (accessed 2015-2-25).
- 3) 関口靖子, 馬場淳子, 越智泰子. 出版委員会とOUG特許分科会の活動成果と今後の課題「ひとりでできる特許調査」出版にあたって. INFOSTAシンポジウム予稿集. 2002, vol. 2002, p. 13-17.